

高知県長期漁海況予報

平成16年下半期(7～12月)の漁況・海況の予想

平成16年7月発行 高知県水産試験場

このたび、平成16年7月から12月を予測期間とした「平成16年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催され、国、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海況

【海況の経過 (平成16年1月～6月)】

1. 黒潮

昨年12月に九州南東沖で発生した小蛇行は、2月には東進し縮小したが、2月下旬に九州南東沖で再び小蛇行が発生した。この小蛇行はその後発達し、その東端は4月下旬には室戸岬沖に、5月下旬には潮岬沖に達し、四国沖に停滞した。

四国沖の黒潮は、足摺岬南方では1月は「接岸」～「著しく離岸」、2～3月は「接岸」～「かなり離岸」と離接岸を繰り返し、4～6月は「著しく離岸」で推移した。室戸岬南方では、1～4月は「接岸」～「やや離岸」で概ね接岸傾向であったが、5～6月は「著しく離岸」で推移した。

表1 足摺・室戸両岬南沖黒潮流軸位置階級区分

階級	範囲(マイル)
接岸	< 25
やや離岸	25、< 45
かなり離岸	45、< 65
著しく離岸	65

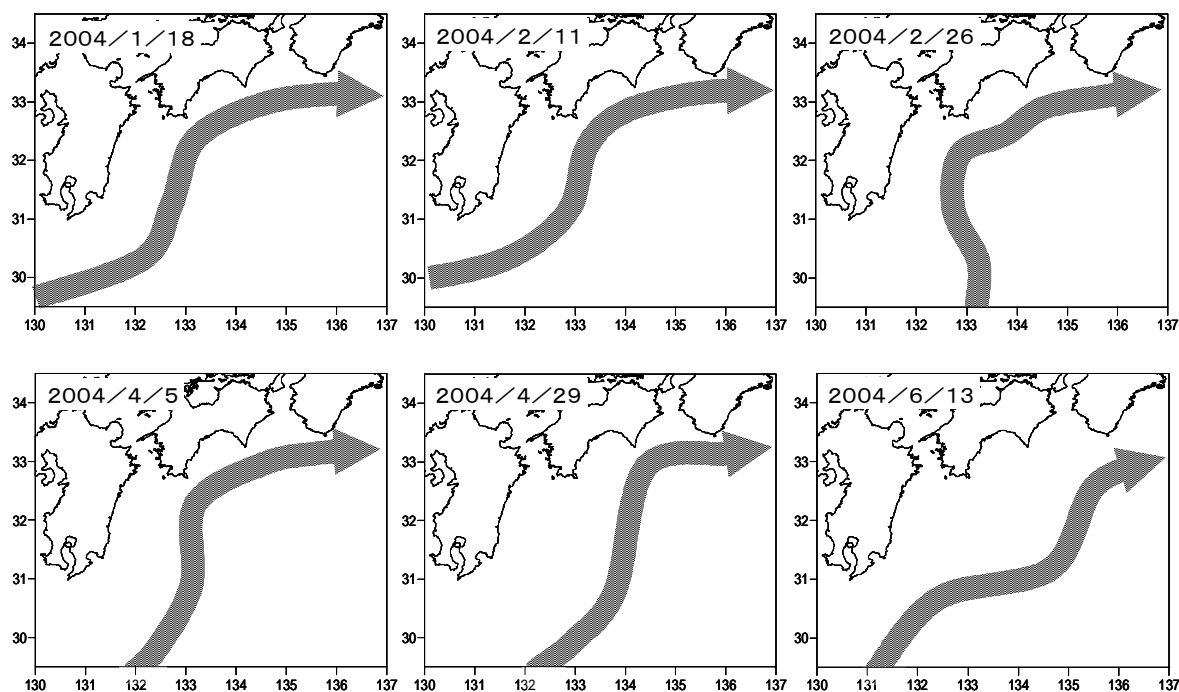


図1 NOAA衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

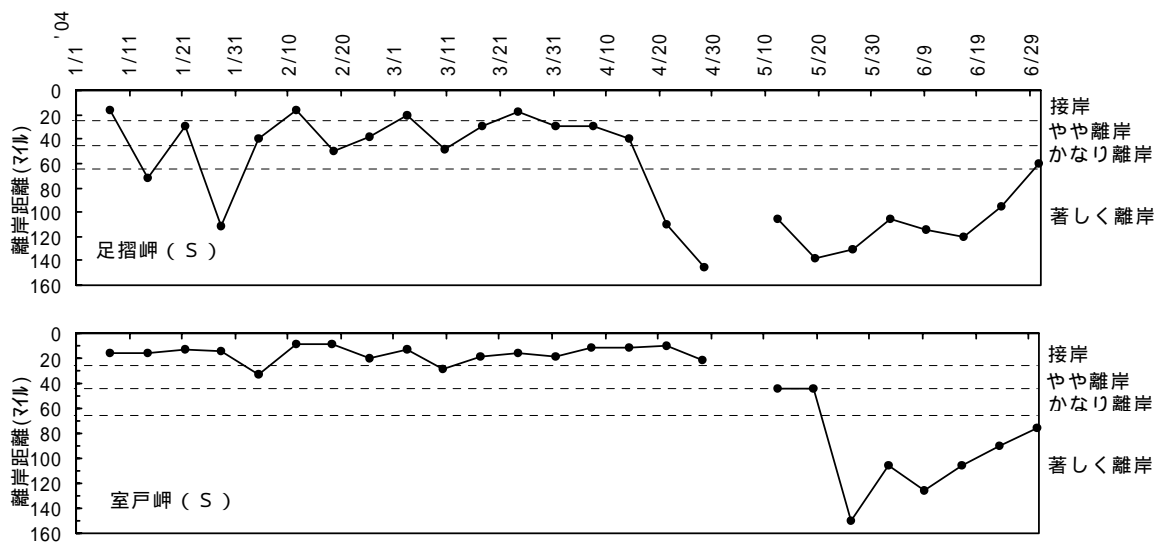


図 2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離(高知県漁海況速報より)

2. 沿岸海況

土佐湾定線海洋観測結果による沿岸水温は、1月、2月ともに0~100mで「かなり高め」、200mで「やや高め」であった。

4月は0、200mで「かなり高め」、50、100mで「やや高め」、5月には0、50mで「やや高め」、100、200mで「かなり高め」、6月は0、200mで「かなり高め」、50、100mで「著しく高め」となった。

今年上半期の土佐湾沿岸水温は、以上のとおり高め傾向で推移した。(表2、3)

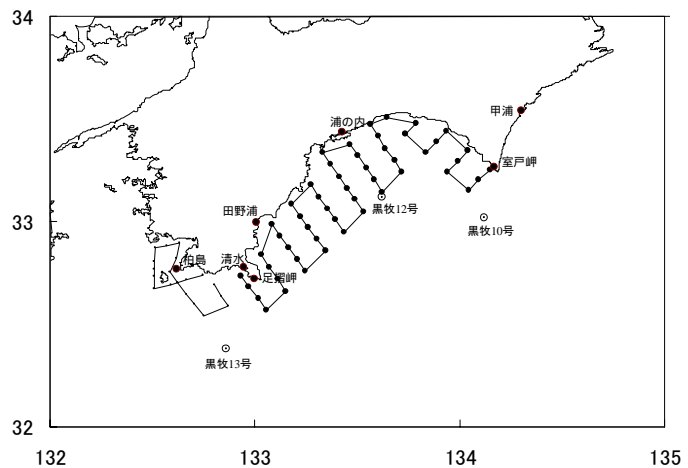


図 3 土佐湾観測点

表 2 土佐湾平均水温の年間偏差

水深(m)	0	50	100	200
平成16年1月	++	++	++	+
平成16年2月	++	++	++	+
平成16年3月	調査なし			
平成16年4月	++	+	+	++
平成16年5月	+	+	++	++
平成16年6月	++	+++	+++	++

表 3 土佐湾水温年間偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+-	平年並(+基調)	0.0~0.6
---	著しく低め	-2.2 以下
--	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
-+	平年並(-基調)	0.0~-0.6

3. 特異現象

海況

- ・6月の土佐湾平均水温において、50、100mは過去最高水温、0mは過去2番目、200mは過去3番目の高水温（1975年以降、欠測年あり。）。

漁況

- ・特別採捕許可によるモジャコ漁の不漁（4～5月）
- ・5～6月足摺周辺マルソウダ（メジカ）曳縄漁の不漁（5月は過去15カ年間で最低の水揚量）
- ・5～6月土佐湾沖の竿釣船によるカツオが好漁（平成4～15年の月平均水揚数量の5月は2.5倍、6月は4.3倍）

【今後の見通し(平成16年7～12月)】

1. 黒潮

6月末現在、四国沖に停滞中の小蛇行は、7月中に潮岬を越え、潮岬以東の黒潮流型は8月にA型(図3)となり、期間中持続する。

四国沖の黒潮は、小蛇行の東進後は足摺岬沖では、接岸傾向で推移する。室戸岬沖では、黒潮流型がA型となることから離岸傾向が続く。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法及び類似年(1975年)の海況変動等による。

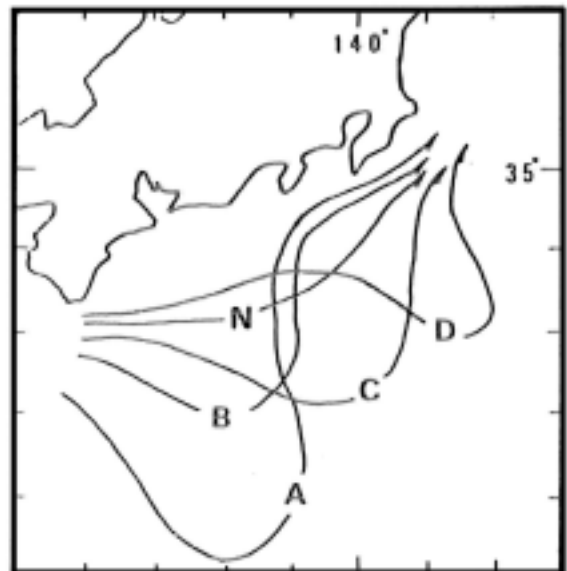


図3 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

2. 沿岸の水温

土佐湾 : 「平年並み」から「高め」で推移する。

豊後水道東部海域 : 「高め」基調で推移する。

紀伊水道外域西部海域 : 「平年並み」から「やや低め」で推移する。

(根拠)

- ・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」（6月24日発表、予報期間7～9月）によると、期間中の平均気温は「高い」。
- ・神戸海洋气象台発表の「平成16年夏季の南日本海区の海面水温予報」によると、南日本海区の海面水温は全般的に「平年並」と予想されている。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。
- ・類似年（1975年）の海況の傾向。

漁 況

サバ類 (マサバ、ゴマサバ)

【漁況の経過 (平成16年1~6月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による総漁獲量 (1~6月計、以下同じ) は 1259 トンで、前年同期 (4233 トン)、平年同期 (1800 トン、以下平年は平成5年~14年の平均値) を下回った。今期のサバ類はゴマサバ2歳魚が主体で、同3~4歳魚も少ないながら漁獲された。マサバは1、2歳魚が若干みられた。
- (2) 釣 (立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4漁協合計) による総漁獲量は 732 トンで、前年同期 (480 トン) を上回り、平年同期 (765 トン) 並であった。漁獲の主体はゴマサバ3歳魚以上であった。
- (3) 定置網 (窪津・加領郷・椎名3漁協合計) による総漁獲量は 57 トンで、前年同期 (174 トン) 及び平年同期 (228 トン) を下回った。県東部の定置網における調査によると、今期のサバ類はゴマサバ3、4歳魚が主体で、マサバの混獲はわずかであった。また、県西部の定置網における幼稚魚調査によると、今期のゴマサバ0歳魚は、大量入網した昨年を下回る (前年比73%) もの、平成11~14年を大きく上回る水準であった。マサバ0歳魚は増加傾向を示した前年を含めた過去5年間の平均を上回る入網であった。

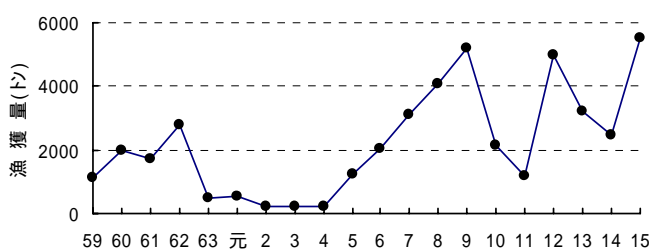


図 サバ類漁獲量の推移 (中型まき網: 宿毛湾)

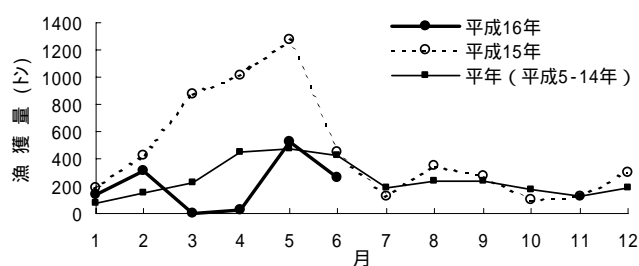


図 サバ類月別漁獲量の推移 (中型まき網: 宿毛湾)

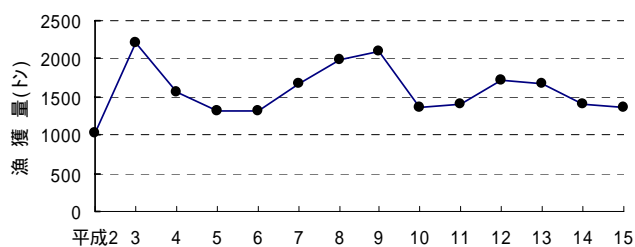


図 サバ類漁獲量の推移 (清水・加領郷・室戸・甲浦: 立縄等釣り)

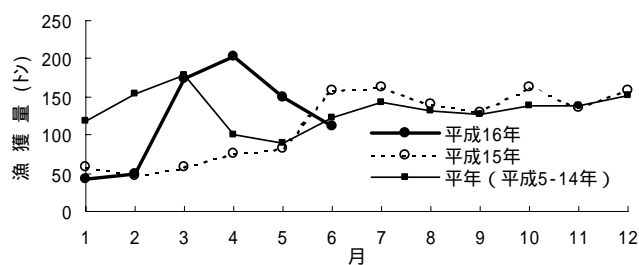


図 サバ類月別漁獲量の推移 (清水・加領郷・室戸・甲浦: 立縄等釣り)

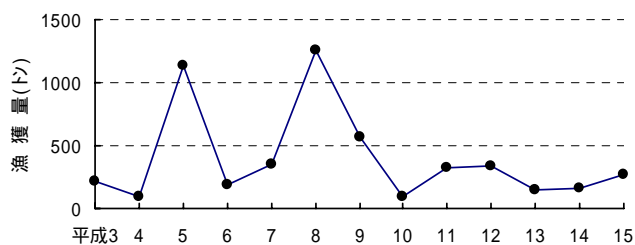


図 サバ類漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名: 大型定置網)

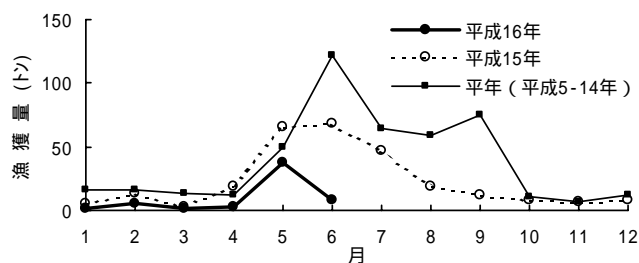


図 サバ類月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名: 大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県: まき網 (北浦、島浦、青島の3港) による平成16年1~6月の総漁獲量は597トンで、前年 (7153トン)・平年 (2640トン、平成11年~15年の平均値) を大きく下回った。

愛媛県：豊後水道東部海域では平成16年4～6月の水揚げ量がゴマサバ主体に794トンであり、前年同期（3487トン）及び平年同期（1238トン、昭和59年～平成15年の平均値）を下回った。
和歌山県：紀伊水道外域2 そうまき網は極めて低調に推移した（比井崎、御坊市、田辺での2～6月計460トン、対前年比46.3%、対平年比31.9%）。

【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：高知県海域全体でゴマサバ1歳魚は前年を下回る。また、マサバは依然低水準。
宿毛湾周辺海域（豊後水道域）では、0歳及び2歳魚は少なかった前年を上回り、ゴマサバ全体として前年並みかやや下回る。サバ類全体としては前年並みか、前年をやや下回る。
芸東海域（紀伊水道外域）では、サバ類全体としては前年並みか、前年をやや下回る。

説明：

ゴマサバ：ゴマサバは、黒潮域を中心に分布し、近年は伊豆諸島周辺海域以西においてもサバ類の中で混獲割合が高くなっている。高知県海域では平成2年以降ゴマサバが漁獲のほとんどを占めている。近年の資源動向は、中位で横ばいである。

今漁期は、日向灘から豊後水道及び宿毛湾において総じて不漁であった。漁獲対象は2、3歳が主体であった。また、昨年同様各地で0歳魚が定置網や旋網への入網が目立った。

今年の太平洋側でのゴマサバ1歳魚の資源水準は、2歳魚より小さいが、0歳、2歳魚は比較的高いと期待される。また、予測期間中の黒潮流軸は、足摺岬沖で接岸基調と推測され、宿毛湾では黒潮から沿岸域への暖水波及が起りやすいことから、来遊が期待される。

マサバ：近年、太平洋側のマサバ資源は低水準、減少傾向にあると考えられている。このため、来遊はあまり期待できず、漁獲があっても不安定である。

マアジ

【漁況の経過（平成16年1～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による1～6月の漁獲量は315トンで、前年（87トン）を上回り平年（597トン）を下回った。今期の2～5月の漁獲は、1歳魚（15～19cm）が主体であった。
銘柄別では、150g以上の「アジ」が46トンで、前年（62トン）及び平年（121トン）を下回った。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は269トンで、きわめて低調であった前年（25トン）を上回ったが、平年（476トン）を下回った。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3漁協合計）による総漁獲量は216トンとほぼ前年（181トン）並で、平年（344トン）の約63%であった。

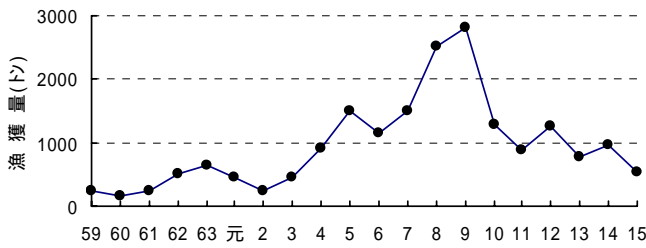


図 マアジ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

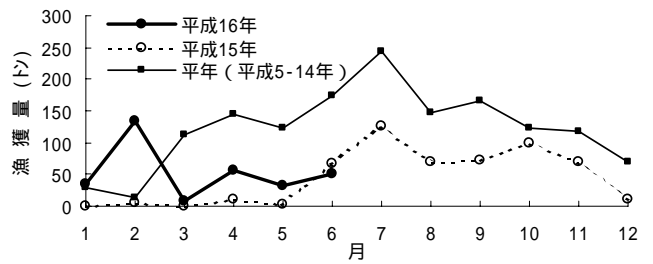


図 マアジ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

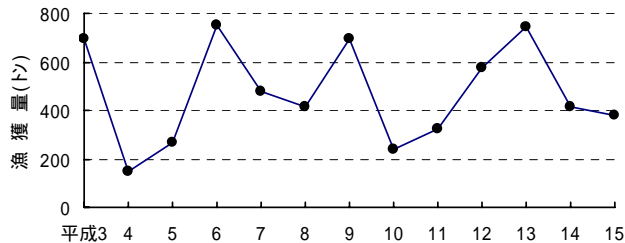


図 マアジ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

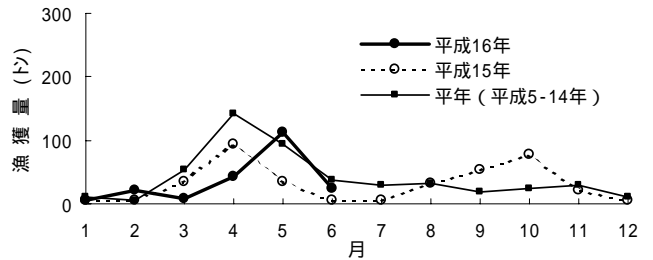


図 マアジ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成16年1～6月の総漁獲量は2856トンで、前年（1122トン）・平年（712トン、平成11年～15年の平均値）を大きく上回った。

愛媛県：豊後水道東部海域における4～6月の漁獲量は1925トンで、高水準であった前年（2077トン）は下回ったものの平年（1317トン、昭和59年～平成15年の平均値）を上回る水準であった。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網では、2～3月に2、3歳魚主体に好漁であったが、4月下旬以降低調に推移した（比井崎、御坊市、田辺での2～6月計1240トン、対前年比115%、対平年比83%）。

【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：宿毛湾周辺海域（豊後水道域）では、不漁であった前年は上回る。魚体は、0歳（尾叉長19cm以下）主体に1歳（20～24cm）も対象となる。

芸東海域（紀伊水道外域）では、前年及び平年を下回る。魚体は、0、1歳（24cm以下）が主体となる。

全体として前年並か前年をやや下回る。

説明：太平洋系群のマアジ資源は中位で減少傾向である。2004年生まれの発生はやや多い可能性がある。

0歳魚の今期の漁況は、薩南、日向灘、豊後水道東部で前年を上回り、豊後水道西部、熊野灘では低調と海域によって差が見られた。これは、2月以降九州南東沖に形成された黒潮小蛇行が4～5月に四国沖で停滞したため、来遊量に差が出たものと思われる。

1歳魚の今期の漁況は、鹿児島県海域、日向灘では前年を上回り、豊後水道、紀伊水道外域東部では、前年を下回った。

マアジの来遊には、黒潮から沿岸域への暖水波及との関係が見られる。予測期間中の黒潮流軸は、足摺岬沖で接岸基調と推測され、宿毛湾では黒潮から沿岸域への暖水波及が起こりやすいことから、来遊が期待される。一方室戸岬沖では、黒潮は離岸基調と推測され、芸東海域では来遊量は多くないと考えられる。

マイワシ

【漁況の経過（平成16年1～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による総漁獲量は13トンで、前年（38トン）と同様に平年（494トン）を大きく下回った。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3漁協合計）による総漁獲量は24トンで、前年（31.6トン）と同様に平年（233トン）を大きく下回った。

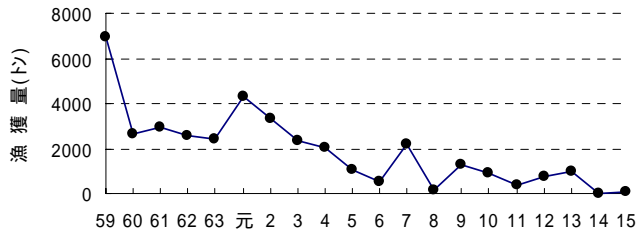


図 マイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

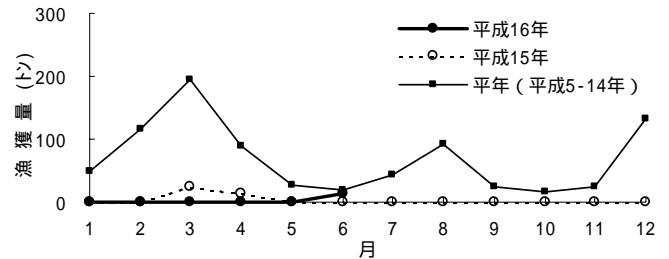


図 マイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

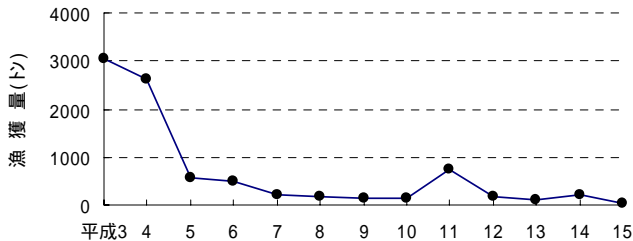


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

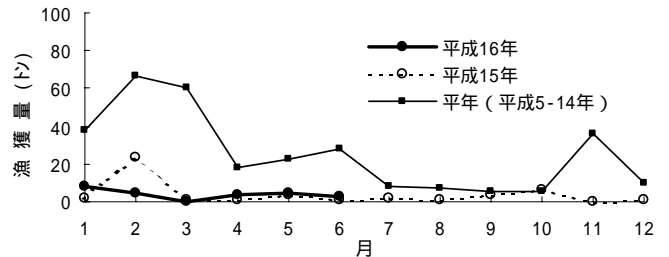


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による1～6月の総漁獲量は2トンと混獲程度であり、前年（80トン）、平年（2550トン、平成11年～15年の平均値）を大きく下回った。

愛媛県：6月に南部海域でまとまった水揚げがあり、4～6月の総漁獲量は442トンと前年を上回った。

和歌山県：紀伊水道外域において、3，4月に大羽群がまとまって漁獲された（南部町、串本漁協1そうまき網1～6月計718トン、平年（平成元年～15年の平均）比168％）。

【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：高知県海域では低調であった前年を上回る。

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は平成6年に100万トンを下回った後、平成7年から平成11年までは50万～80万トン台で低水準ながら比較的安定していた。しかし、平成12年から再び減少傾向が顕著となり、平成16年初めの時点では11.3万トンと推定されている。高知県でも0歳魚を主体に前年は上回ろうが、散発的な来遊で低水準が続くと考えられる。

カタクチイワシ

【漁況の経過（平成16年1～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による総漁獲量は654トンで、前年（352トン）及び平年（339トン）を上回った。内訳は、幼魚（銘柄ドロ）は224トンで、前年（40トン）及び平年（102トン）を上

回った。未成魚・成魚（銘柄タレ）の漁獲も 430 トンと前年（312 トン）及び平年（237 トン）を上回った。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 漁協合計）による総漁獲量は 82 トンと、前年（143 トン）及び平年（139 トン）を下回った。

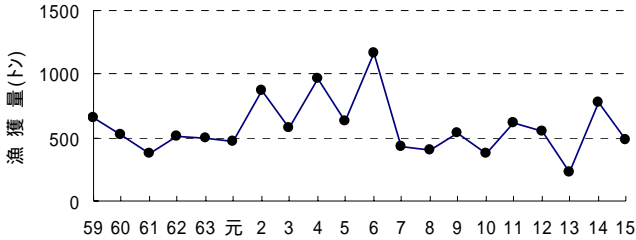


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

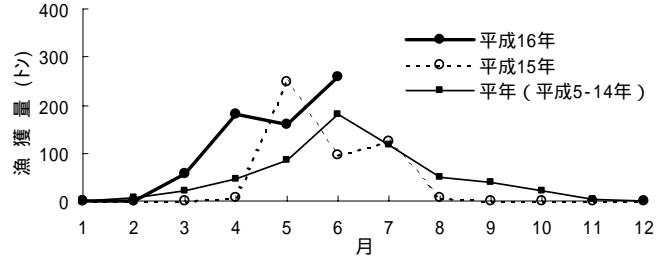


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

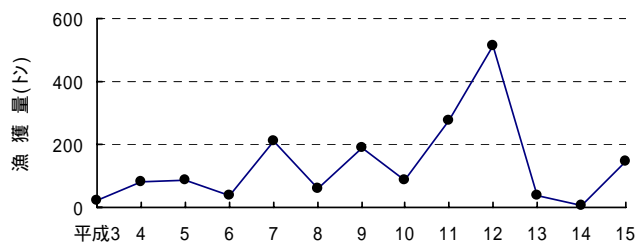


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

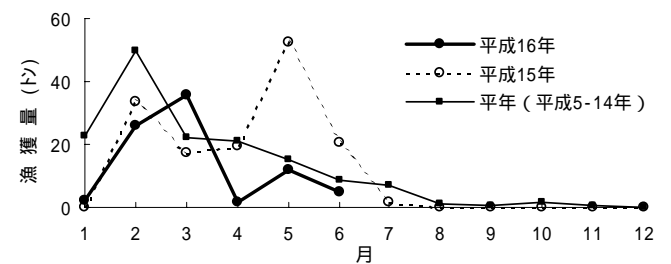


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による総漁獲量は10411トンとほぼ前年（10984トン）並で、平年（13416トン、平成11年～15年の平均値）をやや下回った。

愛媛県：4月～6月の総漁獲量は1981トンで、前年（1124トン）及び平年（514トン、昭和59年～平成15年の平均値）を上回った。

和歌山県：シラス以外の未成魚・成魚はほとんど漁獲対象にしない。

【予測（平成16年～12月）】

来遊量：高知県海域は前年並みからやや上回る。

説明：カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は過去 20 年では高位、5 年間では横ばい傾向にある。周辺の漁況から、平成 15 年生まれ群は平成 13、14 年生まれ群には及ばないものの高い水準を維持していると推測されている。また、平成 16 年生まれ群は産卵状況から高水準の加入が期待されるが、漁場への来遊については注視する必要がある。

ウルメイワシ

【漁況の経過（平成16年1月～6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による総漁獲量は 360 トンで、前年（219 トン）を上回ったものの平年（588 トン）を下回る水揚げであった。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 漁協合計）による総漁獲量は 64 トンで、前年（9 トン）、平年（25 トン）ともに上回った。

(2) 今期の宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による総漁獲量は 111 トンで、ほぼ前年（133 トン）

ン)及び平年(114トン)並であった。

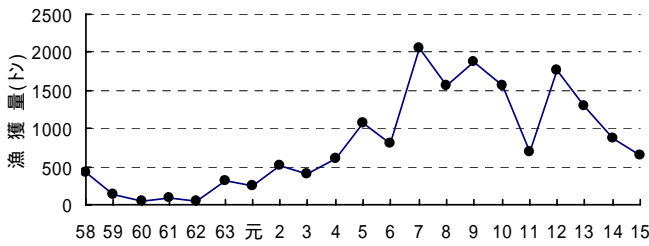


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

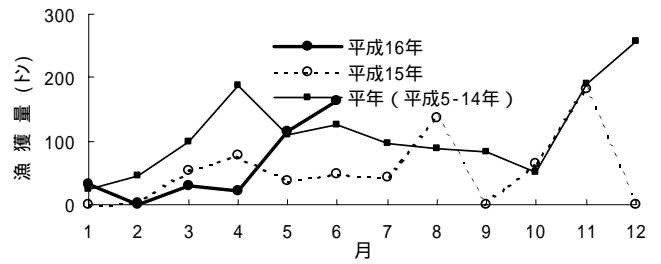


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

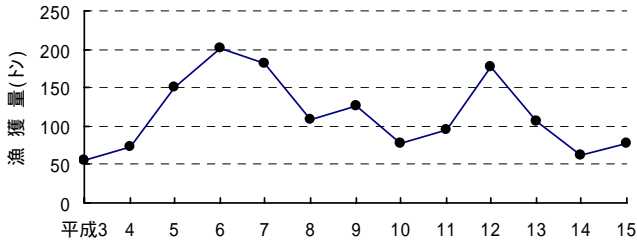


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

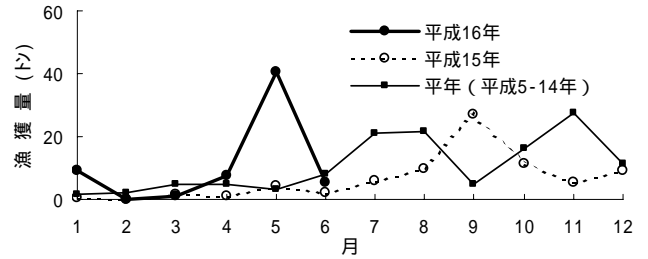


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

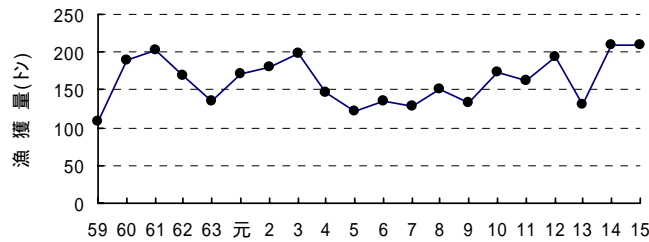


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鈎釣)

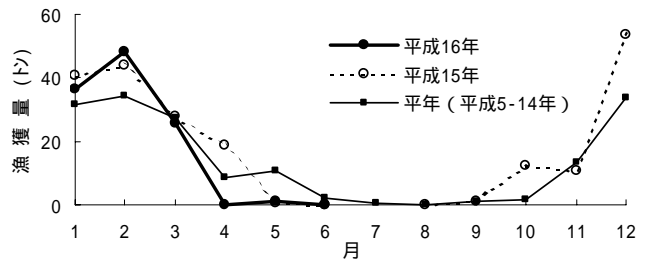


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鈎釣)

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による総漁獲量は1943トンで前年(2144トン)、平年（2033トン、平成11年～15年の平均値）をやや下回った。

愛媛県：4月～6月にかけての総漁獲量は807トンと前年（584トン）、平年（340トン、昭和59年～平成15年の平均値）を上回った。

和歌山県：紀伊水道外域では3月に大羽群がまとまって漁獲された（南部町、串本漁協1そうまき網、1～6月計229トン）。棒受網による当歳魚は4～6月に平年比120%の漁獲であった。

【予測（平成15年7～12月）】

来遊量：前年並みか前年を上回る。

説明：ウルメイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年の中で中位、動向は最近5年の推移から横ばい傾向にある。

本県の上半期の漁況はおおむね前年を上回って推移した。また、豊後水道東部では今後の主体となる当歳魚の漁獲が好調となっている。

シラス

【漁況の経過（平成16年1～6月）】

1 高知県

機船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7漁協合計）による総漁獲量は1066トンで、前年（403トン）及び平年（447トン）を大きく上回った。これらの大半は1～3月の好漁によるものであった。1月はウルメシラスとマイワシシラスが主体であったが、2月からはマイワシシラスが主体となり、3月中旬まで継続した。4月以降はカタクチシラスが主体となったが、黒潮の著しい離岸に伴い不漁となった。

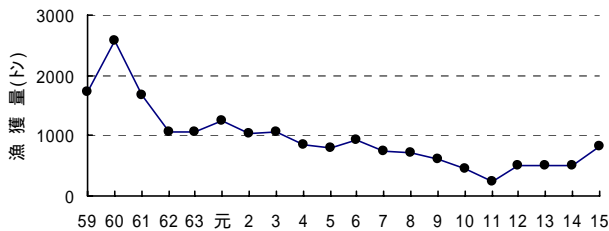


図 シラス漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

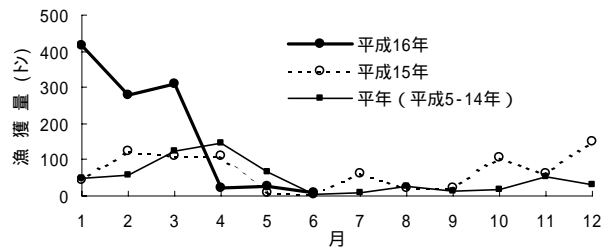


図 シラス月別漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

2 周辺各県の経過

宮崎県：県内8漁協における総漁獲量は1316トンで、ほぼ前年（1413トン）、平年（1301トン、平成11年～15年の平均値）並であった。

愛媛県：豊後水道中部の吉田町漁協における4～6月の共販取扱量は15トンであり、前年比37%、平年比28%と低調であった。

和歌山県：紀伊水道内（箕島町漁協）におけるパッチ網（17統）の春漁は、カタクチイワシシラス主体で過去にない好漁であった（箕島町漁協4月、平年の1.9倍）。

【予測（平成16年7～12月）】

来遊量：土佐湾では前年並みから前年をやや下回る。

説明：本県も含めた鹿児島西部から常磐南部の各地ではカタクチイワシ親魚群の密度が高く、卵の分布量も多い。一方、土佐湾ではこれらの条件に加えて海況がシラスの漁場への加入や滞留などの来遊水準を大きく左右していると考えられる。また、土佐湾では12月までは他の海域と同様にカタクチシラスが漁獲の主体であるが、12月以降はウルメシラスとマイワシシラスが主体となると予想される。このため予測は困難であるが、産卵量や親魚量、近年の漁獲動向等を考慮すると、近年では比較的好漁であった前年並みからやや下回る漁獲となる見込み。